

運動の楽しさを味わい、「わかった」「できた」 を実感しながら進んで運動に取り組む児童 の育成

大分県臼杵市立臼杵小学校

全校児童数	232名(男子120名 女子112名)		
全クラス数	12	教職員数	30名
体育専科教員訪問学校数			2校
訪問校	海辺小・福良ヶ丘小		
体育専科教員名		藤澤 貴紀	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体育アンケートの結果より

年度初めアンケート「体育の授業が好き」という設問に肯定的回答をした子どもは82.5%

→運動の楽しさを味わい、体育好きな子どもを増やす。

年度初めアンケート「外遊びをしている」という設問に肯定的回答をした子どもは79.4%

→進んで外遊びをする子どもを増やす。

2 取組の計画

- ①「わかった」「できた」を実感できる体育学習の充実
- ②体育的環境の整備
- ③健康的な生活を送る子どもの育成
- ④市全体に実践を広げる取組

Do：実践内容

1 「わかった」「できた」を実感できる体育学習の充実

(1) 授業展開のパターン化

- ①板書の工夫（学習の流れ、めあてとふりかえり）
- ②1人1台端末の活用
- ③教職員の指導力向上のためのチームティーチング

(2) 「思考力、判断力、表現力等」の育成

- ①視点を明確にした見合い・教え合いの場の設定
- ②自己の課題解決に向けて選択できる場の設定
- ③チームで作戦を選ぶ、試す、ふりかえる場の設定

(3) みんなが活躍できる体育学習に向けた工夫

- ①課題解決に向け選択できる場の工夫
→自己の能力に適した場や練習方法を選択できる場を設定することにより、主体的に運動に取り組むことができる
- ②みんなが楽しめるルールへの工夫
→誰にでもボール操作をしたり得点したりするチャンスがあるゲームのルールづくり
- ③主運動につながる動きづくりの設定
→毎時間積み重ねていくことによる運動感覚の習得

2 体育的環境の充実

- (1) 地域人材の活用（古式泳法山内流教室）
- (2) 持久走大会、なわとび大会の実施
- (3) ドッジボールコート、ジャンピングボードの設置

3 健康的な生活を送る子どもの育成

- (1) 外遊びの推進「あそびんご」（1校1実践）
- (2) 栄養教諭と連携した食育授業

4 市全体に実践を広げる取組

(1) 臼杵市体力向上会議

第1回：体力テスト測定のポイント（市浜小）

第2回：授業公開（臼杵小）5年生「ハンドボール」

第3回：授業公開（市浜小）6年生「食育」

第4回：今年度のまとめと来年度に向けて（北中）

(2) 体育専科教員訪問校指導

海辺小(全学年)と福良ヶ丘小(3,4年生)を対象に週2回の訪問校指導を行った。担任と連携を図りながら、指導方法の工夫・改善をしていくことができた。その他の小学校にも年1~2回の訪問校指導を行うことができた。

●工夫したこと&苦労した点

- ①同じ教材を扱う場合でも、各学級の実態を考慮したり、子どもたちの考えを活かしたりした場やルールの工夫をした。
- ②1人1台端末の活用を、ほぼ全ての体育学習に取り入れた。また、ボール運動やゲームにおける思考、判断、表現する場での活用に挑戦した。しかし、運動量とのバランスから45分間の授業構成に苦労した。

Check：取組の成果

- ①2学期末アンケート「体育の授業が好き」という設定に対する肯定的回答をした子どもは89.5%（+7%）
→授業展開のパターン化や自分で場・方法等を選ぶようにしたことで運動進んで取り組むことができるようになったと考えられる。
- ②2学期末アンケート「外遊びをしている」という設問に対する肯定的回答をした子どもは84.1%（+4.7%）
→あそびんごで、遊びを自由に選べたことが外で遊ぶきっかけづくりになったと考えられる。

Action：今後の課題

- ①アンケート「体育の授業が好き」に否定的な回答をした子どもは、苦手な単元（特に体力を高める運動）があり、そこに工夫や授業改善が必要。
- ②外遊びに否定的（約15%）な子どもたちが、少しでも外遊びに参加するきっかけの工夫が必要。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・単元を通じた体育学習ができたことで、子どもたちが主体的に取り組むようになった。
- ・あそびんごの取組が外遊びのきっかけになった。さらに、子どもたちの遊びのバリエーションが増え、遊びが多様化された。

見通しをもたせるための視覚的支援



地域人材の活用(古式泳法山内流教室)



ゲストティーチャーによる泳法指導

1校1実践「あそびんご」



自分で遊びを選んでビンゴ表をつくる

単元指導計画案の作成と配付

本務校や訪問校, 希望する先生方へ配付

教職員の指導力向上のためのチームティーチング



若い教職員が進んで授業実践(ダブルコートシュートゲーム) ※全学級の単元をそろえて, 場などの準備時間の削減

1人1台端末の活用(第3学年~6学年「器械運動」マット運動)



【学習の個別化】お手本と自分を比べたり(可視化), 動きをふり返って次に活かしたり(イメージ化)する時間の設定

栄養教諭と連携した食育授業



第4学年 「朝ごはんの内容について考える」

体育専科教員公開授業 第5学年 「ボール運動」: ゴール型(ハンドボール)



板書と電子黒板を併用(学習支援ソフト)



作戦成功のためのチームタイム(シンキングツールをもとに)



ゲーム(攻撃専門あり)(ブルーシートのゴール)